

中島陣屋

中島陣屋は旗本である小笠原氏の陣屋で現在の「岡崎市中島町字薬師32」付近にあった。三河吉田藩小笠原長矩の弟、長定（小笠原筑後守）が1663（寛文3）年に3000石の分地を受けた。知行所替えとなり、1697（元禄10）年に中島に陣屋を構える。小笠原氏は下中島村（現在の中島町）とそれ以外の5カ村（高畑村、河野村、館出村、幡豆郡家武村、幡豆郡上室村）の地頭で、陣屋は明治2年まで存続した。当時の常夜灯は突き当りの八幡神社に移設。陣屋は東西32間、南北22間あったようであるので、100mの規模だったようである。小笠原長常は7代当主で、その墓は龍泉寺にある。

【陣屋】

一般的に3万石以下の城を持たない大名が陣屋を持った、また上級旗本も知行地に陣屋を構えた。さらに大藩の家老の所領地である知行所の政庁が置かれた屋敷も含まれる。飛地を所領に持つ大名が、現地の出張所として陣屋を設置することもあった

【知行所】

もともと知行、知行地、給知、給所と同じ意味で、主君が家臣に与えた所領のことであったが、江戸幕府では幕臣である旗本、御家人に与えられた土地をこう呼んだ。御家人の場合、旗本と区別して給知（給地）と称されることもあった。

【三河中島藩】

三河中島藩は、三河国額田郡（現在の愛知県岡崎市中島町）に存在した藩。藩庁は中島陣屋。「明暦四年武鑑」松会開板 明暦4（1658）年刊では、1万8千200石、藩主は板倉主水（板倉重矩、1617～1673）。このテーマの中島陣屋とは異なると思われる。



中島陣屋付近 奥は八幡社 20150918



中島陣屋付近 奥は八幡社 20150918

本項は以下の資料を引用している。

【愛知県碧海郡誌】

発行所：（株）千秋社
印刷所：図書印刷（株）
発行日：2000（平成12）年6月15日
原著：参河國碧海郡誌
発行者：碧海郡教育會
印刷所：江戸川印刷（株）
発行日：1916（大正5）年10月15日



中島陣屋常夜灯 20150918

